

「オリジナルツールを用いた服薬指導による家庭血圧測定継続への取り組み」

○坂本 茉奈美¹、平田 崇仁¹、古川 絵理²、松崎 千恵利³

¹総合メディカル株式会社そうごう薬局 水戸店、²亀戸駅前店、³在宅調剤センター青砥店

【目的】

2014年4月の血圧ガイドライン改訂に伴い、家庭血圧の測定がより重要視されてきている。また健康サポート薬局においても、高血圧対策の推進・啓発を行っていくことを目指している。そこで、来局患者に対して、オリジナルツールを用いて家庭血圧測定の重要性と正しい測定方法を指導し、正しく継続的に測定できるようにする取り組みを行ったので報告する。

【方法】

2016年3月～6月に当薬局グループの3店舗に来局した患者のうち、指導に同意を得た41歳～87歳の方132名（うち降圧薬服用中もしくは高血圧と診断されている患者90名を含む）に対して、オリジナルツールを使って家庭血圧測定に対する患者の認識・意欲・技術の向上にむけて指導した。ツールは、「正しい血圧の測り方」の説明イラストや降圧目標をお薬手帳等に貼付して併用薬と同時に見られるように、シールタイプで作成した。また、高血圧以外の患者には、家庭血圧管理による重大疾病の予防について指導を行なった。さらに、再来局時にアンケートで指導後の変化を確認し、変化がなかった患者には再指導を行なった。

【結果】

再来局時にアンケートを聴取できたのは19名（51～78歳）であった。そのうち、測定回数が増えたのは7名、測定方法に改善がみられたのは5名だった。意識の変化として、「測る重要性を感じた」「測定の継続をするきっかけとなった」「ツールを机に貼っていつでも見られるようにした」という前向きな意見があった。また、家庭血圧測定によって、早朝高血圧が判明して処方変更となった例が1件見られた。

【考察】

薬剤師が家庭血圧の重要性と正しい測定方法を指導することで、患者の家庭内血圧測定に対する認識・意欲・技術が向上に寄与した。また、治療薬の変更につながり適切な薬物治療の選択へも貢献できた。薬剤師の指導による働きかけは、患者の健康管理及び疾病コントロールに有用と考えられる。